

平成26年度開催公開講座一覧(全28講座)

資料2

担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	募集人数	参加人数
公開講座委員会	都市とオリンピック ※	オリンピックは4年に一度開催される世界的なスポーツの祭典であり、スポーツを通じた人間形成と世界平和を究極の目的として、夏季大会と冬季大会が行われています。2020年には東京で第31回オリンピック競技大会が開催されることが決定しました。半世紀前に東京で開催された第18回大会(1964年)では、日本人選手の活躍はめざましく、日本に活気を与えただけでなく、都市の発展や経済成長にも大きな影響を及ぼしたと言われています。今回、東京オリンピックを開催することが、都市の発展にどのような影響を及ぼしていく可能性があるか、また日本のスポーツの普及や発展のための活動がどのように変化していくのかについて、さまざまなトピックを取りあげながら解説します。	長谷部 勇一(横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授) 藤原 徹平(横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授) 海老原 修(横浜国立大学 教育人間科学部 教授) 木村 昌彦(横浜国立大学 教育人間科学部 教授) 伊藤 信之(横浜国立大学 教育人間科学部 教授) 関子 浩二(筑波大学体育系 教授)	2014年11月8日(土) 2014年11月15日(土) 2014年11月29日(土)	教育文化ホール 大集会室	300名	369名 (3回合計)
教育人間科学部	落語『子別れ』を考える ※	名作として知られる落語『子別れ』(子は錠)。この噺は上中下からなる長編落語だが、多くの場合に下だけが口演されています。しかし、その本当の魅力は、「まつとうさ」と「乱調」が交錯していく上中下全体の構造にあり、そのことをわかりやすく示し、主人公熊五郎の激変していく人物イメージを、楽しみながら見つめていきます。	川添 裕(横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	2014年6月21日(土)	みなとみらいサテライトキャンパス	30名	26名
	地域から見るフランスの食文化とその多様性 コルシカ島の豚とシャルキュトリー ※	伝統的牧畜社会だった地中海のコルシカ島の豚と人間とのかわりについて、①豚およびそれにかかわるコルシカ語の名称(mannar inu、tumbera、purcaghju)、②シャルキュトリー(豚肉加工品)および③ブランド豚「ポルク・ヌシュチュラレ」の認定およびシャルキュトリーのAOC(原産地呼称統制)の認定をめぐる島の動き、を中心に紹介します。	長谷川 秀樹(横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授)	2014年7月19日(土)	教育文化ホール 中集会室	50名	50名
	親子料理教室 巻き寿司と吸い物作り ※	2013年12月にユネスコ無形文化遺産に和食が登録されました。この公開講座では、和食の基本である米とだしを使った調理実習を行います。ごはんのだしの食べ比べをした後、巻き寿司と吸い物を親子で作成し、日常生活にいかせるようにしましょう。	杉山 久仁子(横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	2014年8月19日(火)	教育人間科学部 第1研究棟312室	8組16名	16
	実践的新聞の読み方 ※	大手紙(朝日、毎日、読売)を中心に複数紙の記事を素材に、新聞の論調や報道ぶりの違いを読み比べ、新聞を読む際の視点を学んでいただきます。グループごとの議論を踏まえ、リーダーが発表するなどの手法を取ります。(元大手紙記者の経験がある教員が指導、アドバイスします)	高橋 弘司(横浜国立大学 教育人間科学部 准教授)	2014年9月6日(土)	教育人間科学部 講義棟7号館301室	60	60
	小紋の着物の着装を通じて学ぶ 着物文化 ※	カジュアルなおしゃれ着である“小紋の着物”を自分で着装する体験学習と講義を通して、着物文化について体感しつつ、学んでもらいます。着つけについては、「下着から着物まで」自分で着て、「帯の着つけ」はペアで他人に着つける形になります。	藤本 弥生(横浜国立大学 教育人間科学部 教授)	2014年9月13日(土)	教育人間科学部 講義棟7号館310室	10	10
経済学部	金融危機の経済学 ※	日本のバブル崩壊と失われた20年、アメリカのサブプライムローン問題とリーマンショック、ギリシャ財政問題に端を発するユーロ圏の金融危機等、近年世界中で金融危機が頻発しています。これらの金融危機はなぜ起こったのか、経済や生活にどのような影響を及ぼしたのか、政府・中央銀行・国際機関はどのような経済政策で対応したのか、そして、このような金融危機を防止する手立てはあるのかなどについて、金融とファイナンスの専門家が講義します。	奥村綱雄(横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授) 西出勝正(横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 准教授) 西川輝(横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 准教授)	2014年10月15日(水) 2014年10月22日(水) 2014年10月29日(水)	経済学部新講義棟211教室	120	100 (3回合計)
経営学部	初心者のための簿記会計入門 ビジネスの言語、企業会計を学ぶ	初学者を対象に、「ビジネスの言語(language of business)」と呼ばれる簿記会計を基礎から学習します。損益計算書、貸借対照表などの財務諸表の仕組み、製品・サービスのコストの計算手法について基礎から解説します。	中村 博之(横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授) 原 俊雄(横浜国立大学 大学院国際社会科学研究院 教授)	2014年6月4日(水) 2014年6月11日(水) 2014年6月18日(水) 2014年6月25日(水)	経営学部講義棟	40	279 (4回合計)
理工学部	第8回 海洋空間のシステムデザインカップ ひれ推進コンテスト	本コンテストでは、高校生に海や船・物造りの魅力を伝えるために講義とコンテストを実施します。まず7/21(月(海の日))に船や魚のひれに関する公開講座として講義を実施し、その後、8/23までに各高校の参加チームにひれ推進模型を製作してもらい、これらを大型実験水槽にて走らせ、そのスピードを競うコンテストを行います。なお、講義の内容は以下の通りです。「(1) 船はどんなふうに見えるの? (2) 船はどうやったら速く走れるの? (3) 魚はどんなふうに見えるの?」	鈴木 和夫(横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 和田 大志(横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 村井 基彦(横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 川村 恭己(横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 平川 嘉昭(横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 高山 武彦(横浜国立大学 大学院工学研究院 研究教員) 樋口 丈浩(横浜国立大学 大学院環境情報研究院 助教)	2014年7月21日(月・祝) 2014年8月23日(土)	船舶海洋工学棟 3階講義室、大型実験水槽	60	150 (2回合計)
	エンジニアのための実験講座① —腐食防食の評価・計測技術— ※	本講座では、腐食防食の評価に用いられる電気化学的な計測技術に焦点を当て、その原理と具体的な測定方法について講義と豊富な実験により習得いただけます。講座内容には、電気化学及び腐食防食工学の基礎的内容を把握されていることを前提とした部分もあります。	岡崎 慎司(横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 横山 隆(横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 伊藤 大輔(横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員)	2014年6月26日(木) 2014年6月27日(金)	講義:理工学部講義棟C-101 実験:化工・安工棟、リカレント教育実験棟	16	10

平成26年度開催公開講座一覧(全28講座)

資料2

担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	募集人数	参加人数
工学 研究 院	エンジニアのための実験講座② —ステンレス鋼の腐食防食基礎とその 対策技術— ※	本講座は、ステンレス鋼の腐食とその対策技術など多岐にわたる学際的な内容を提供致します。また腐食事例を紹介しながら講義・実験を行いますのでより理解を深めていただくことができます。なお、受講にあたっては、本内容に関連したエンジニアのための実験講座①をあらかじめ受講されることをお勧めします。	梶村 治彦 (新日鐵住金ステンレス株式会社 研究センター フェロー) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員)	2014年7月31日 (木) 2014年8月1日 (金)	講義：理工学部講義棟C-101  実験：化工・安工棟、リカレント教育実験棟	16	8
	実践機器分析基礎講座 (1) 機器分析を利用した有機分子構造解析の 実際 —機器の選択とアプローチ— ※	分子構造解析は物質の性質を考える上で極めて重要なアプローチです。本講座は分子構造解析の初心者や実務者を対象とし、『有機分子構造解析における分析機器の選択』ができるように、高速液体クロマトグラフィー(HPLC)、質量分析法(MS)、および核磁気共鳴法(NMR)を中心に基礎講義および実習を交えて学習します。	内藤 晶 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 川村 出 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 金子 竹男 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 石原 晋次 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 栗原 広成 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術補佐員)	2014年8月28日 (木) 2014年8月29日 (金)	機器分析評価センター	8	5
	実践機器分析基礎講座 (2) —初心者のための機器分析 X線、電子線を用いる固体試料の観察及 び分析— ※	本講座は固体試料の観察及び分析の初心者や実務者を対象とするものです。固体試料の観察でよく用いられる、X線回折(XRD)、走査電子顕微鏡(SEM)、透過電子顕微鏡(TEM)および電子線マイクロアナライザー(EPMA)について、原理や得られる結果、試料調整方法等を紹介するとともに、これらの装置を用いて実習を行います。	梅澤 修 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授) 横山 隆 (横浜国立大学 大学院工学研究院 講師) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 吉原 美知子 (横浜国立大学 機器分析評価センター 准教授) 近藤 正志 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 根岸 洋一 (横浜国立大学 機器分析評価センター 特任技術職員)	2014年9月8日 (月) 2014年9月9日 (火)	機器分析評価センター	16	5
	—講義・実験を通じて学ぶ— 材料の劣化とその対策 ※	材料は、自らあるいは環境との相互作用によって劣化し、莫大な損失を生じています。本講座では、実際上の問題点をふまえて、材料の劣化とその対策について平易にかつ学問的な講義を行います。また講義の内容の理解を高め、かつ具体的に体得させるために、実験、実習および演習を併せて行います。	朝倉 祝治 (横浜国立大学 名誉教授) 関根 和喜 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 特任教授) 東田 賢二 (九州大学 大学院工学研究院 教授) 石井 正義 (元・日石エンジニアリング 技術本部技術センター 部長) 高橋 宏治 (横浜国立大学 工学研究院 教授) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 工学研究院 准教授) 横山 隆 (横浜国立大学 工学研究院 講師) 笠井 尚哉 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 准教授) 濑谷 忠弘 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 工学研究院 特別研究教員) 古池 仁暢 (横浜国立大学 共同研究推進センター特任教員 (研究教員))	2014年9月1日 (月) 2014年9月2日 (火) 2014年9月3日 (水) 2014年9月4日 (木) 2014年9月5日 (金)	講義：理工学部講義棟C-201  実験：化工・安工棟、エネルギー棟、リカレント教育実験棟	100	25
	セラミックス材料の開発と利用 のための基礎と実際 ※	セラミックスをこれから学ぼうとする社会人技術者を対象として、セラミックス材料を構成する原子や分子の性質、材料の物理的、化学的性質について述べ、その材料の成形方法と焼結方法、結晶構造および電気的、力学的特性に関して解説します。また、諸特性を知るのに重要な状態図の見方を述べるとともに、演習も行います。	横山 隆 (横浜国立大学 工学研究院 講師) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 工学研究院 准教授) 伊藤 大輔 (横浜国立大学 工学研究院 特別研究教員)	2014年9月18日 (木) 2014年9月19日 (金)	講義：理工学部講義棟C-101	20	3
環境 情報 研究 院	情報・数理・言語のシンセシス IT社会を生き抜くための知恵	IT社会をよりよく生きるためには、情報機器の操作や知識だけでなく、その基本原理や背景にある哲学を知ることが大切です。そこで、本講座では、情報セキュリティをささえる暗号理論の専門家、数学者、人間の認知のもととなる言語の原理を探究する理論言語学者による討論バトルを通して、それを明らかにしていきます。	根上生也 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 四方順司 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 藤井友比呂 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授)	2014年5月10日 (土)	教育文化ホール 大集会室	100	69
	私たちの暮らしを支える結晶の 世界 ※	結晶と聞くと、食塩や石英の結晶のように、硬くて透明なものを思い浮かべる人が多いと思います。実は私たちは、日常生活において様々な結晶を利用しています。本講座では、本学の有機材料、無機材料及び金属材料の研究をしている教員が、毎日の生活で使われている様々な結晶についてご紹介します。	松本 真哉 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 多々見 純一 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 梅澤 修 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授)	2014年8月2日 (土)	理工学部講義棟B-201	60	55
	ライフサイクル思考に基づく環 境教育 ※	地球温暖化やCO2排出削減などの環境問題に、私たちはどう向き合えばいいのでしょうか？本講座では、身近なモノのライフサイクルの学びを基礎に、私たち一人一人の毎日の生活に潜む環境問題を考えるための環境教育の教材を体験します。	松本 真哉 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授) 平山世志衣 (横浜LCA環境教育研究会 代表) 水野 建樹 (未踏科学技術協会 研究主幹)	2014年8月31日 (日)	みなとみらいサテライトキャンパス	各回 20名	11
	振動と音を科学する 身の回りのいろいろな振動現象とそのし くみ ※	私たちの身の回りにはいろいろな種類の振動があります。振動といえば高校の物理学でも習いますが、何ともわかりにくかった経験をお持ちの方も多いように思います。現在の工学の力によっても、身の回りの振動が全て説明がつけられないのですが、役に立つ振動もあれば、邪魔な振動もありますので、それらを例にとって振動現象を解説して、身の回りの不思議のひとつを「理解する」方法を知っていただきたいと思います。音の反射しない「無響室」の体験も行います。	森下 信 (横浜国立大学 環境情報研究院 教授)	2014年11月8日 (土)	環境情報1号棟 3階会議室	20	12

平成26年度開催公開講座一覧(全28講座)

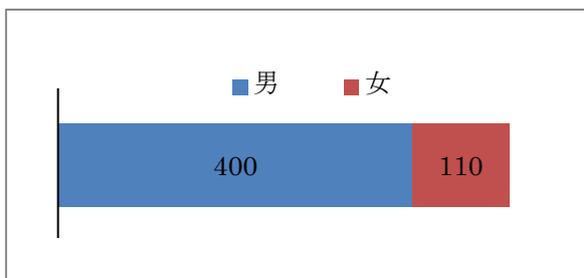
資料2

担当	講座名	講座内容	担当講師	開催日	会場	募集人数	参加人数
シ ド 市 イ ン フ ロ 研 究 ベ ー ル	都市交通最前線 都市交通に関する最新の研究動向や実践動向を紹介する ※	2003年より毎年実施している都市交通についての公開講座です。今回は、交通研究室の2人の教員で分担して、「都市交通計画」、「交通工学」、の2つのコマを提供いたします。	中村 文彦 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 教授) 田中 伸治 (横浜国立大学 大学院都市イノベーション研究院 准教授)	2014年6月14日 (土)	YCC (YOKOHAMA CREATIVECITY CENTER) ヨコハマ創造都市センター 〒231-8315 横浜市中区本町6-50-1	150	113
G M I 共 同 研 究 推 進 点	—アクティブマテリアル— 自己治癒材料の現状と将来 ※	き裂により生じる割れや欠けといった部品不具合や材料欠陥は、工業機械製品やインフラ構造物の品質特性に著しい悪影響をおよぼします。技術者を対象としてセラミックスをはじめとする自己治癒材料の基礎的知識から、“き裂治癒=傷を治す”表面改質法に対する動向や最近のトピックスを交えながら分かりやすく解説します。	中尾航 (横浜国立大学 工学研究院 准教授) 高橋宏治 (横浜国立大学 工学研究院 教授) その他外部講師数名 (3~4名程度)	2014年9月6日 (土)	共同研究推進センター2F セミナー室	50	18
情 報 基 盤 セ ン タ ー	初心者のためのWi-Fi無線LANの実践 自宅のセキュアな無線LANの作り方	近年、ノートPCやスマートフォンなどのモバイル端末の普及に連れて、Wi-Fi無線LANの利用が日常的になってきました。自宅でも安全な無線LANへアクセス環境の確保が重要です。本公開講座では、初心者でも理解できる家庭の無線LAN構築時の注意点を解説した上、市販の無線ルータを用いたWi-Fi無線LAN構築を実践します。	徐 浩源 (横浜国立大学 情報基盤センター 教授)	2014年6月7日 (土)	横浜国立大学 情報基盤センター 講習会室	20	14
機 器 分 析 評 価 セ ン タ ー	高校生のための分析入門講座 「テクノワールド 2014」 最先端の分析機器を体験しよう ※	大学の研究で用いる最先端の分析機器の操作体験をしましょう。分析装置の原理を理解し、身近なものを対象に自分で操作して観察・分析を行う。最先端の研究機器を体験してみましょう！！ 実習予定機器：透過電子顕微鏡(TEM)、走査電子顕微鏡(SEM)、電子線マイクロアナライザー(EPMA)、核磁気共鳴装置(NMR)、質量分析装置(MS)、イメージアナライザ	荻野 俊郎 (横浜国立大学 大学院工学研究院 教授) 吉原 美知子 (横浜国立大学 機器分析評価センター 准教授) 金子 竹男 (横浜国立大学 大学院工学研究院 特別研究教員) 近藤 正志 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 根岸 洋一 (横浜国立大学 機器分析評価センター 特任技術職員) 石原 晋次 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術専門職員) 高梨 基治 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員) 田中 陽一郎 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術職員) 栗原 広成 (横浜国立大学 機器分析評価センター 技術補佐員)	2014年8月6日 (水)	機器分析評価センター	30	14
推 進 女 共 同 参 画	共に創る新しいケアのかたち 明るい介護を目指して	近年、介護の担い手は男女に広がり、仕事と介護を抱える人が増えています。本講座では、講師から介護を巡る制度や実情について講義を受けた後に、参加者同士で話し合い、今後の介護と仕事のあり方、家族や地域との関わりなどを探ります。介護に対する参加者の不安感や負担感を和らげ、前向きに取り組めるようになることを目指します。	関 ふ佐子 (横浜国立大学 国際社会科学研究院 教授) 工藤 由貴子 (横浜国立大学 教育人間科学部 准教授)	2014年5月30日 (金)	かながわ県民活動サポートセンター 会議室1501 (〒221-0835 神奈川県横浜市神奈川区鶴巻町2-24-2)	40	31
教 科 安 全 研 究 セ ン タ ー	社会インフラ、化学/発電プラント等の高経年化とその対策 ※	様々なプラント設備や社会インフラは時を経て高経年化しておりメンテナンスや設備の更新が必要ですが、劣化への対応が不十分なことにより重大な事故が起っています。このセミナーでは社会インフラ、化学プラント、火力プラントを例に、設備の高経年化に関する問題と対策について考えていきます。	藤野 陽三 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター 特任教員(教授)) 三宅 淳巳 (横浜国立大学 安心・安全の科学研究教育センター長) 伊藤 茂男 (電力中央研究所 エネルギー技術研究所 副所長・研究参事)	2014年7月2日 (水)	メディアホール	40	48
セ 統 合 的 研 究	神奈川の海を学ぶ ※	神奈川県は東京湾と相模湾に隣接し、多くの海洋関連企業と研究開発機関が立地する。一方、湘南海岸という日本有数の観光と海洋レジャー地域がある。海県神奈川の県民に身の周りがある海についてのリテラシーを高めてもらうため、現代日本の海洋政策のキーワードである総合的海洋管理の視点から市民講座を開講する。	中原裕幸 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 客員教授) 藤岡換太郎 (神奈川大学 工学部講師) 松田裕之 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター長 教授) 宮本卓次郎 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 教授) 水井涼太 (横浜国立大学 統合的海洋教育・研究センター 講師)	2014年10月15日 (水) 2014年10月29日 (水) 2014年11月12日 (水) 2014年11月26日 (水) 2014年12月10日 (水)	横浜西区みなとみらい 2丁目3番5号 クイーンズスクエア横浜 クイーンモール3階 一般社団法人横浜みなとみらい21 プレゼンテーションルーム	40	187 (5回合計)
教 科 安 全 研 究 セ ン タ ー	産業界及び大学における安全にかかわる人材育成 ※	産業界においてこの数十年間の労災件数は概して減少傾向にあるものの依然として大小さまざまな事故が発生しています。熟練技術者の大量定年退職の状況を受け、安全確保のために若手技術者に対する安全工学教育のさらなる充実が求められています。当セミナーでは、まず産業界における安全技術に関する現状と期待について解説し、海外の大学の安全工学教育の調査報告、産業災害情報を活用した教育事例、産業界との連携に基づいた大学において提供できる安全工学教育プログラムと産業界のニーズについて紹介します。各講師に解説していただきながら参加者ともに我が国の安全技術と人材育成の現状を整理し、今後の安全工学教育のあり方について考えていきます。	戸枝 毅 (富士電機 計測制御機器事業部) 笠井 直哉 (横浜国立大学 大学院環境情報研究院 准教授) 和田 有司 (産業技研 安全科学部門 爆発利用産業保安研究Gr長) 岡崎 慎司 (横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授)	2014年12月25日 (木)	共同研究推進センター2F 211セミナー室	40	40

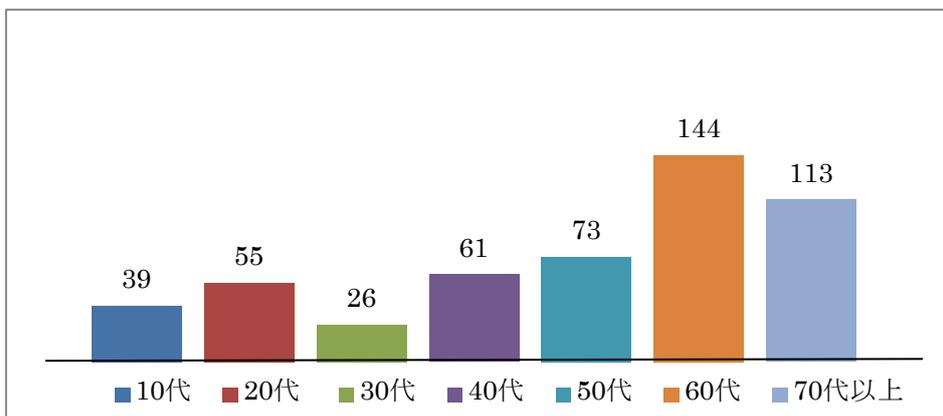
※アンケート実施講座

## 各部局開催の公開講座 参加者アンケートの集計結果

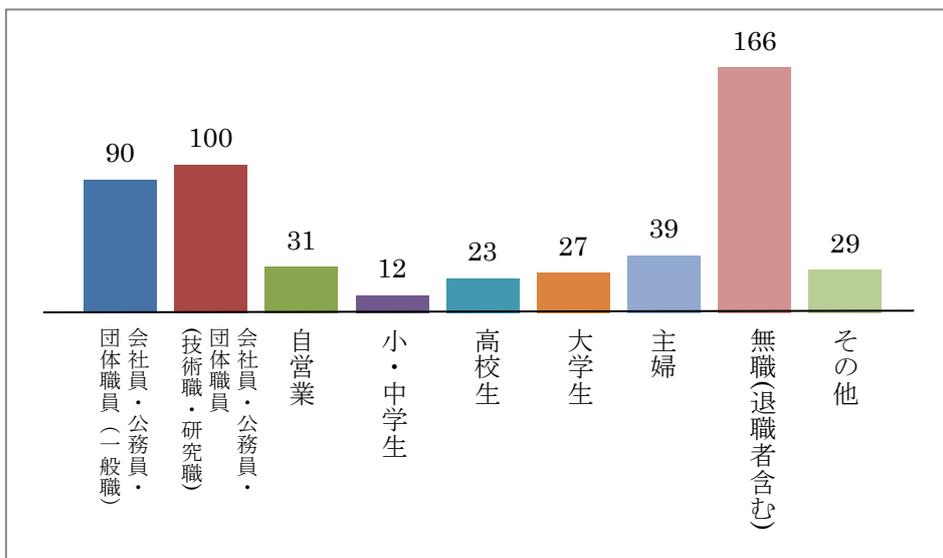
### 性別



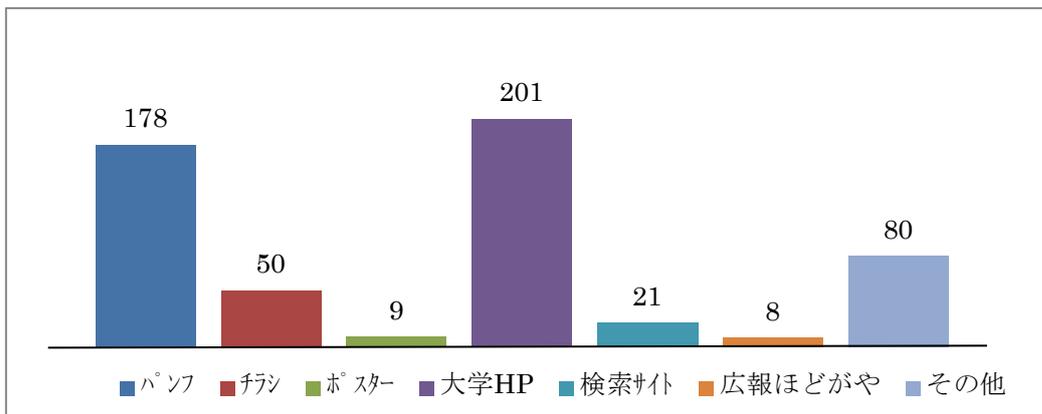
### 年代別



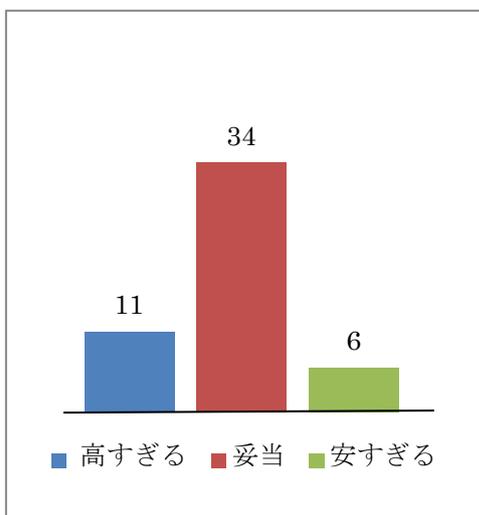
### 職業別



## どこで本学の公開講座を知ったか

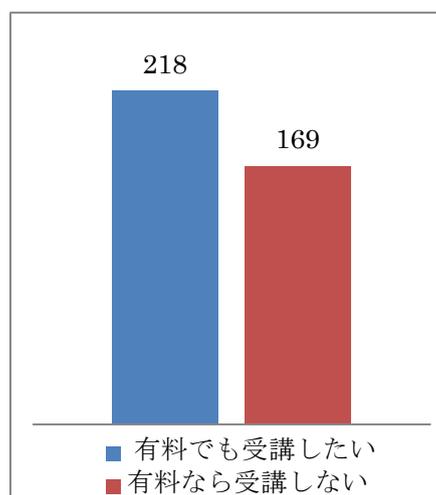


## 受講料について（有料講座の場合）

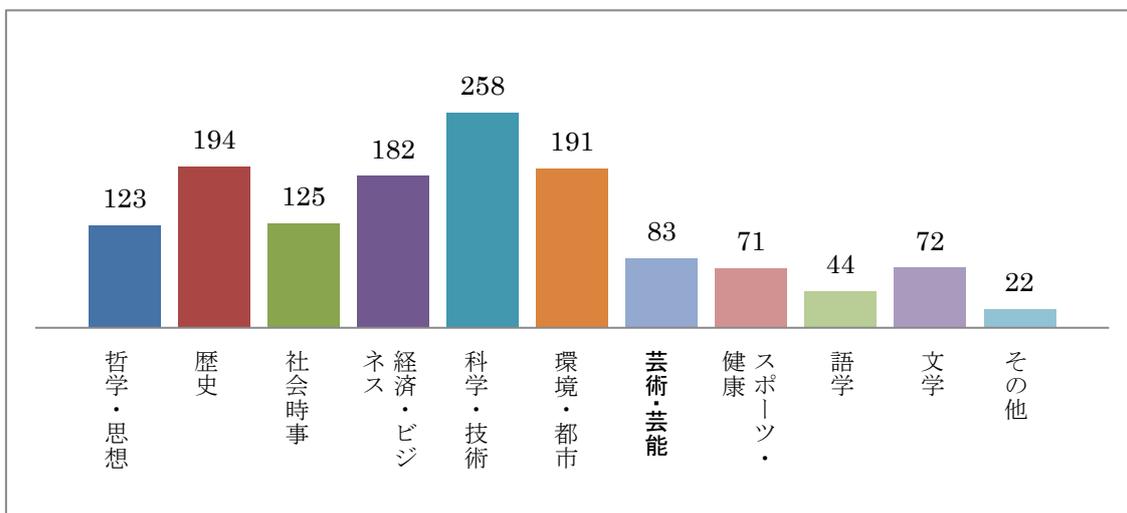


## 受講料について

## 有料でも受講するか（無料講座の場合）



## 今後希望するテーマ



## 公開講座委員会主催

### 「都市とオリンピック」実施報告

#### ◆総括

本講座は本学と読売新聞横浜支局の共催で、本学教育文化ホール大集会室において11月8日から11月29日にかけて6回開催されました。本年度のテーマは「都市とオリンピック」であり、東京オリンピックを開催することが、都市の発展にどのような影響を及ぼしていく可能性があるか、また日本のスポーツの普及や発展のための活動がどのように変化していくのかについて学ぶ講座でした。今までの公開講座の実績、読売新聞での告知、開催場所、オリンピックへの興味などにより、10代から70代以上の幅広い年齢層から123名の申し込みがありました。実際の受講者は平均61名でした。そのうち4回以上出席の方は申込者の46%の57名であり、その受講者に修了証が授与されました。

アンケート結果を見ると受講の動機の88%は「都市とオリンピック」というテーマへの興味でした。全体で89%の受講生が「よく理解できた」あるいは「ほぼ理解できた」と回答しており、92%の受講生が「非常に有意義であった」もしくは「ある程度有意義であった」と回答しており、今回の講座に対して高い評価が得られたものと考えます。また34%の受講生は有料であっても出席すると答えており、受講動機を合わせて考えると今回のテーマへのニーズは高いといえます。

本年度の全学公開講座の実施にあたって、6人の講師の先生はもちろんのこと、熱心に受講された方々、告知や記事掲載をしていただいた支局長をはじめ読売新聞横浜支局の方、講座の実施に心から尽力いただいた事務局の皆様深く感謝いたします。

#### ◆申込者数 123名

#### ◆申込者の年代

年代	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	不明	総計
人数(名)	4	4	6	11	13	42	40	3	123

## ◆受講者数（出席カード提出者数）

開催日	講師	受講者数（名）
11月 8日	都市イノベーション研究院准教授 藤原 徹平	89
11月 8日	筑波大学体育系教授 関子 浩二	77
11月 15日	教育人間科学部教授 海老原 修	55
11月 15日	教育人間科学部教授 伊藤 信之	56
11月 29日	国際社会科学研究院教授 長谷部 勇一	47
11月 29日	教育人間科学部教授 木村 昌彦	45

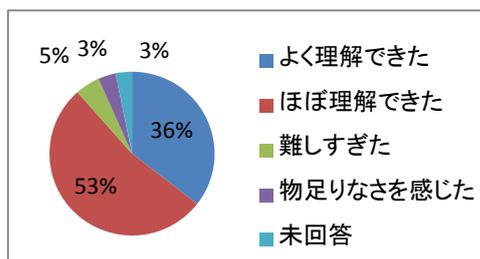
## ◆修了証授与数 57名

全6回中、全4回出席した者に修了証書を授与

## 平成26年度 公開講座委員会主催主催 公開講座アンケート結果

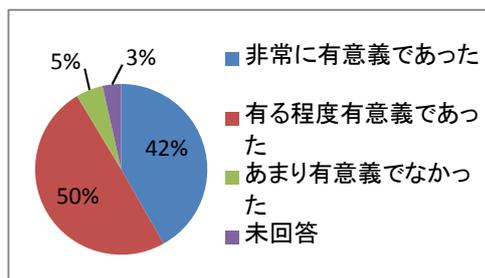
### 【問1】 講座内容について、いかがでしたか。

よく理解できた	133
ほぼ理解できた	198
難しすぎた	18
物足りなさを感じた	13
未回答	12



### 【問2】 受講して有意義であったと思いますか。

非常に有意義であった	156
有る程度有意義であった	185
あまり有意義でなかった	19
未回答	13

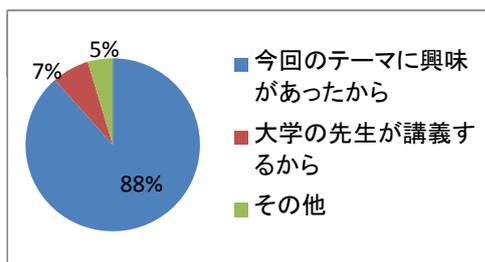


### 【問3】 今回の公開講座の受講動機について、教えてください。(複数回答可)

今回のテーマに興味があったから	345
大学の先生が講義するから	27
その他	18

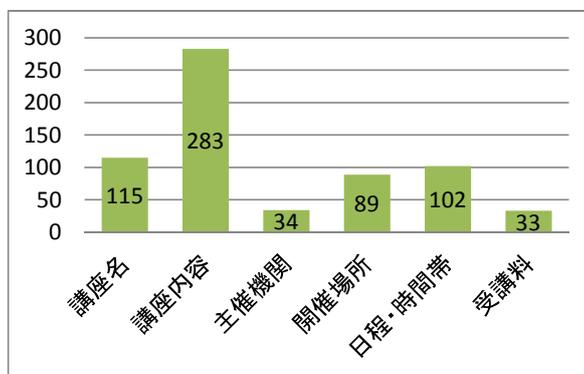
※その他のご意見

- ・読売新聞を見て
- ・50年ぶりのオリンピック、国と国民、スポーツ界の心構え
- ・母校を久しぶりに訪問したかったから
- ・知識教養を高めたい
- ・横浜国立大学のキャンパスに興味があったから



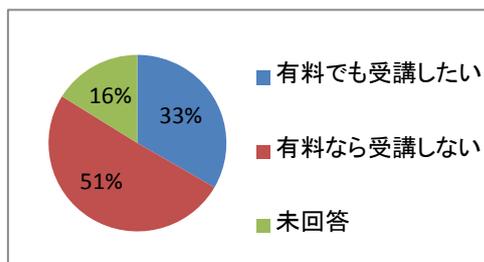
### 【問4】 公開講座の受講を決める際に、何を重視されますか。(複数回答可)

講座名	115
講座内容	283
主催機関	34
開催場所	89
日程・時間帯	102
受講料	33



【問5】 次回この講座が有料の場合、受講されますか？

有料でも受講したい	124
有料なら受講しない	188
未回答	60

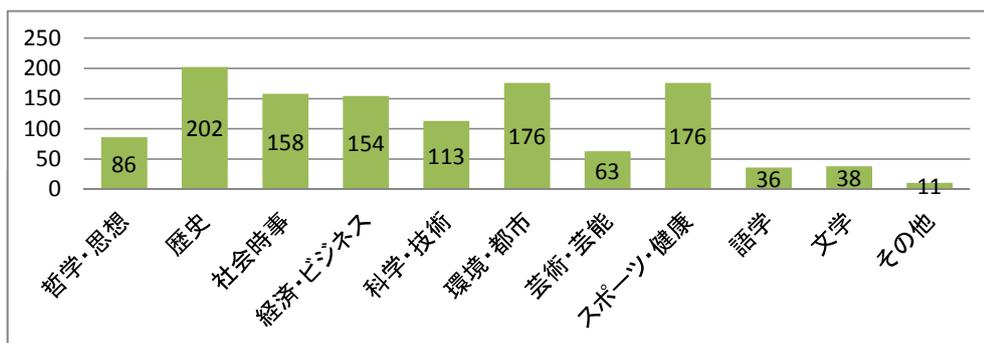


【問6】 今後、どのような内容の講座を希望されますか。(複数回答可)

哲学・思想	86
歴史	202
社会時事	158
経済・ビジネス	154
科学・技術	113
環境・都市	176
芸術・芸能	63
スポーツ・健康	176
語学	36
文学	38
その他	11

※その他のご意見

- ・イスラムの世界についての解説
- ・建築史、特に日本の建築について
- ・「やさしい分子生物学」の講座
- ・横浜開港前後の歴史及び町の発展などを詳しく
- ・分子生物学の講義をきいてみたい
- ・横浜、神奈川の風土、特徴など 例：県勢、市勢のデータ化など
- ・数学の教え方

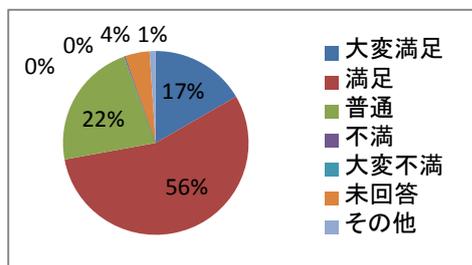


【問7】 今回の会場について、いかがでしたか。

大変満足	62
満足	207
普通	83
不満	1
大変不満	0
未回答	16
その他	4

※その他のご意見

- ・会場は大変満足
- ・地下鉄駅から少し遠いのが難点
- ・登坂が大変でした(息が切れました)
- ・地下鉄から不便
- ・今回のように雨の時は大変です。
- ・相鉄方面へのバスの便が少ない。特に土日、及び16時以降



【問8】 その他ご意見、ご要望がありましたらお聞かせ下さい。  
(多数のご意見から一部を抜粋しました。)

**第1日目 I (講師:都市イノベーション研究院 藤原 徹平 准教授)**

<p>・都市デザインなど初めて聞く話があって楽しく拝聴しました。 ・横浜とオリンピックの関係についても少し聞くことができると思いました。</p>
<p>・日本のナショナリズムの考え方の改革、この21世紀には絶対に必要。「三人寄れば文殊の知恵」世界の知恵を集中させる手段、方法はないのでしょうか。ぜひこの考え方を推進してください。</p>
<p>・交通インフラについて国内、国外の話は聞くことが出来ましたが、具体的に例えばJRと京急の協力や役割について(一企業ではなく)聞きたかった。</p>
<p>・大変重要である。うまく活用すれば将来への国の資産となるということが想像されますがそれを実現する(形にしてい)く組織のあり方は日本は本当に大丈夫なのでしょうか。新聞のニュース等では一都知事のアイデアであるとか、一政治家の発想レベルしか伝わってきません。非常に心配ですね。組織論的にうまくいったオリンピックはありますか？</p>
<p>・オリンピックは国際イベント、ハード面についてもインターナショナルであるべきとの藤原先生の考えに賛成。</p>
<p>・内容が盛りだくさんだったのでこの内容でもう少し時間を長くってほしかった。</p>
<p>・理路整然、分かりやすい解説で終始集中して聴くことが出来ました。大変良かったと思う。 ・オリンピック(東京)開催にあたり、官・学・民の知識を集結して成功に導いてほしいと思う。</p>

**第1日目 II (講師:筑波大学体育系 岡子 浩二 教授)**

<p>・我々にも役立つトレーニング実践編の講座がほしい。</p>
<p>・理解しやすい説明、講義であったが期待する講座のテーマとの違和感はある。</p>
<p>・競技団体の指導者養成もやっており、内容がより深められ大変に良かったと思います。最新の指導理論にふれられて大変に参考になりました。</p>
<p>・スポーツコーチングは一般的なことであってオリンピックのために何をやっているのか具体的なことが必要である。</p>
<p>・最近スポーツ界での不祥事が相次いでいたため、コーチング力とトレーニング力のテーマに興味を持っていました。</p>
<p>・コーチング力にもスポーツ医学や事故防止・安全面、人間性としての倫理観、哲学的な考えも必要になっているとの内容を知る事ができて大変勉強になりました。</p>
<p>・コーチングの成功例、失敗例を実例モデルを使いながら解説してもらってもっと関心も持てたと思うし理解もできたのではないかと思います。論理だけの解説だと頭になかなか残らない。</p>

**第2日目 I (講師:教育人間科学部 海老原 修 教授)**

<p>・本日の講座内容のような話は日常ではなかなか知りにくい話であり、大変参考になった。</p>
<p>・パラリンピックの普及の障害は日本人の文化、すなわち本音と建前にあると思う。この考えは変化はしているがまだ長い時間が必要であろう。学校教育の中で積極的にパラリンピックの意義、促進策を広めてもらいたい。</p>
<p>・私は視覚障害1級である。ウォーキングはするがスポーツを実施しているとは思っていない。今後、検討したい。</p>
<p>・障害者自身がスポーツに接近できる施設を含めた環境作りを国、自治体がもっと積極的に行っていかなければ、と思う。</p>
<p>・スポーツと政治の関係について改めて考えさせられた。大変有意義な講義でした。</p>
<p>・テーマのオリンピックが日本のスポーツ政策に与える影響については何が解なのかよくわからなかった。</p>

### 第2日目 II (講師:教育人間科学部 伊藤 信之 教授)

・木村選手の大学時代から卒業して実業団に入ってから成長過程を事例を用いて説明していただけたため、理解しやすかった。
・筋肉を鍛えたり走るフォームの違いでも体に負担を余りかけずに記録が伸びる事も分かり参考になった。(映像も用いての説明がわかりやすかった)
・具体的事例で分かりやすいが少し各論に入りすぎて、聴講者側にとっては話の流れが単純になっているように感じた。今後コーチになろうとする方や「コーチングの実例」の研修会のようなきがしました。
・スポーツとは本当に繊細なものだということがわかりました。アスリートは頭が良くなければということですね。
・少年野球の監督の経験(4年)があるが今回のコーチング方法を知っていたらもっと良い指導ができたと思う。自治体の協力などでこのような講習を指導者が受ければ良いなと思いました。
・木村文子との師弟関係に大いに共鳴、コーチングの出来の良し悪しで結果に左右、理解できた。木村文子の試合は国立でのインカレでよく応援したことを思い出す。社会人として活躍を期待大である。
・スポーツ以外でもそうだが、本人の考えを聞き入れてそれに対するコーチとの話し合いがとても重要と考えます。選手の精神力の強さに感動。

### 第3日目 I (講師:国際社会科学研究院 長谷部 勇一 教授)

・講義の内容は面白かったが、経済用語など難しい言葉が理解できないものがありました。もう少し説明していただけたらよかったです。
・大変理論的かつ現実的な講義をしていただきましてありがとうございます。一つの問題提起が末端の繊細な部分まで関連することが手に取るように理解することができ大変勉強になりました。
・オリンピック開催はプラス面のみ強調されているが、需要の先取りであるとか、建物等の維持費等々、負の部分も多くあるはずである。この点についても十分評価され対等でとられる必要がありますね。
・人口問題とかオリンピック以外でも何かと参考になる話があり大変勉強になりました。
・私の業務経験、専攻学からは知りえない内容で面白く拝聴した。 ・経済的分野からの視点も大切であることを理解した。
・経済効果といっても投入される資源は税金が多くを占めるのではと思います。また市民スポーツへの還元というが活性化についてはマスコミ報道を見る限りオリンピックレガシーとして残るか疑問に思われます。金メダル数ばかりが目立ちます。

### 第3日目 II (講師:教育人間科学部 木村 昌彦 教授)

・インフォメーションとインテリジェンス、mustとnever、可能性の追求、5w2Hによる理論と実践、強靱な体力と内面の繊細な(心)コントロールの仕方、育成、大変奥深い講義を聞くことができ感銘を受けました。
・面白かった。カット部分が多かった。時間が足りない。
・情報化社会の中で一流選手は自分自身の実力を判断するのが難しくなったと思う。報道やインターネットに惑わされ自分を見失う危険性は高いと思う。心・技・体の中で今は心のケアは大きなシェアを占めると思った。
・金メダルでなければダメなのか、どのような経緯で銅メダルになったのか、オリンピック選手との会話や精神状態など生々しい会話が聞くことができ感動いたしました。人ってこんなに変わるのか！
・話す材料が多すぎて深掘りが少し不足していた。前向きな話し方は好感が持てた。
・この度の3回にわたる講座によりオリンピック開催がハード、ソフト両面に与える影響、そして選手の育成(コーチング、トレーニングなど)に対するご苦勞が理解でき勉強にもなりました。これからも社会、政治、経済等、その時々々にマッチしたテーマで開講頂ければありがたいと思います。